

混沌とした中から

Windows Vista (おまけ)

Windows Vistaはどうも出荷がまた少し遅れて2007年の1月には出ないようですが、Officeは今年から来年にかけて2007が出るようです。もうすでに今回の特集で書いたのですが、もう少し詳しいのがあったのでもう少し追加します。

まず製品形態ですが、これまで家庭用であった「Personal」、仕事に使う「Standard」全てを含む「Professional」の3系統であったものが、アメリカ版ですが7系統になるようです。これまでのPersonalはBasicとしてプリインストール用となり、ビジネス用が3系統、Professionalが3系統となります。新しいアプリケーションとしては、「Groove」が追加されます。GrooveはP2P型の情報共有ソフトでサーがないものです(あれ、どっかで聴いたことあるような気がします、大丈夫でしょうか。Winnyの被害はあのソフトが日本製で日本だけの問題だったのですが、今度は全世界に広がりそうな気がします。)

大変身したのは前にも書きましたがメニューです。メニューバーがなくなり、前回は表現がわかりにくかったかもしれませんが、簡単な話し、ブラウザの流行の「タブ」を導入したということです。タブは書類入れの見出しのようなもので、タブをクリックするとその下のメニューが変わってしまうというものです。これまではメニューバーがあって、メニューをクリックするとプルダウンメニューが表示されるものでした。そのメニューもだんだん多くなったためか、Office2000ぐらいからはまずよく使うものだけが表示され、そのあとしばらくして全部を表示するという風になってきていました。ただ、旧版メニューの互換モード(設定でこれまでのメニューになる)は用意されていないので、慣れるしかないということになります。

ここにみるとWordでは、テンプレート(どの程度利用しているのかは疑問ですが)が豊富になったことがあります、それより「ドキュメントの比較」機能がついています。バージョンの違う2つの文章を並べてチェックし、さらに相違点を自動抽出してくれるようになります。また、コメントや個人情報を一括で削除する「ドキュメント検査」などが追加されています。

Excelでは、まずシートが104万8576行×1万6384列に拡大されたことがあります。それより変わったのはグラフ機能。データ範囲を選択し挿入から横棒、円、折れ線などのグラフを選択すればまずグラフが描ける。そのグラフを選択するとメニューに「グラフツール」が表示されその中からデザイン、レイアウトを選択することによってグラフの細かいところまで作ることができる。

Powerpointは集合や循環、リストなどの策が機能が強化されたがこれはWordやExcelでも使える。

マイクロソフトは今回の機能改良で従来版よりクリックが60%減るといっているようですが、これははじめてOfficeをはじめて触る人の話のようで、これまで使い込んできたユーザにとっては勝手に違うということになりそうです。といってもファイル形式がXMLになりデータの共有性が高まるということからどうしても慣れていかなければいけないようです。デモを見る限りは面白そうには見えるのですが、なかなか手ごわそうに思ってしまうのは私だけでしょうか。現在マイクロソフトでは製品版同等の機能を盛り込んだβ2版を公開し提供されています。予備機があれば試用してみてくださいはどうか。(おまけ終了)

(今週の情報誌から)

○日経エレクトロニクス 6月5日号

特集 Web家電の夜明け

→家電とインターネットの融合という言葉が使われ始めて久しい。いろいろなものがネットに接続されてきたが成功したものはない。接続できても決められた範囲から出られない。それでは使われなくなるのは当たり前。広範囲のデータを利用できるようにならなければWeb家電は利用されない。機能が日々新しくならなければならないところによりやく対応しようとしている。

○日経パソコン 6月12日号

緊急企画 大進化を遂げたOffice 2007

→今回の特集参照。